

山口大学喫煙対策の現状と課題 — 学生喫煙率調査を基に —

山口大学保健管理センター

藤勝綾香 梅本智子 森福織江 中原敦子 小林久美
森本宏志 山本直樹 奥屋 茂

要旨

山口大学では、平成 15 年度より受動喫煙防止対策に取り組んできたが、その対策はまだ十分であるとは言えない。そこで、社会的背景及び教育的見地から今後より一層の喫煙対策推進が求められると考え、本学における学生の喫煙状況を把握し、今後の喫煙対策を進めるうえでの課題を検討したので報告する。

キーワード

受動喫煙防止, 喫煙防止教育, 敷地内禁煙

1 はじめに

山口大学では、平成 15 年 5 月 1 日の健康増進法施行に伴い、受動喫煙防止の観点から「指定喫煙場所以外での喫煙禁止」という分煙対策に取り組んできた。最新で把握できている各キャンパスでの喫煙対策・ルールは表 1 の通りである。小串キャンパスでは、平成 22 年 4 月より敷地内禁煙が実施されている¹⁾。常盤キャンパスでは、「2015 年 4 月 1 日までに常盤キャンパス内を全面禁煙とすることを検討する」という長期計画に基づき、平成 22 年度から 5 年計画が立てられ、指定喫煙所の削減（改廃）や意識調査等が実施されている^{2) 3)}。吉田キャンパスでは、平成 24 年度健康衛生週間を機に、吉田事業場衛生委員会にて敷地内の喫煙場所・設置数を調査（表 2）、喫煙所マップ作成等が行われた。しかし、ポイ捨てや歩きタバコ、禁煙エリアでの喫煙等のルール違反はしばしば見られ、特に吉田キャンパスでは喫煙場所が

多数設置されているうえ建物の出入り口や通路に面しているものがある等、本学の受動喫煙防止対策は十分であると言い難いのが現状である。

表 1 キャンパス別喫煙対策・ルール

	喫煙対策・ルール
吉田キャンパス	平成 16 年度～指定場所以外禁煙 平成 25 年度時点での指定喫煙場所： 55 か所
常盤キャンパス	平成 16 年度～指定場所以外禁煙 平成 21 年度より喫煙対策 WG 発足 平成 26 年度時点での指定喫煙場所： 4 か所
小串キャンパス	平成 22 年 4 月より、敷地内全面禁煙

表 2 吉田キャンパス内の喫煙場所・設置数

部局・部署	H25	H24
人文学部	1	3
教育学部	2	3
経済学部	7	8
理学部	8	8
農学部・共同獣医学部	5	6
事務局(1号館・2号館)	3	5
大学教育機構(学生支援部)	28	28
大学情報機構(総合図書館)	1	2
吉田キャンパス全体	55	63

喫煙による健康への影響は明らかであり、健康日本 21(第二次)では、「成人の喫煙率減少」、「未成年者の喫煙をなくす」等が目標として掲げられ、山口県でも「山口県たばこ対策ガイドライン(改定)」にて、受動喫煙防止対策として空間分煙から全面禁煙を目指すこと等が挙げられている。これらの社会的背景から、山口大学でも今後より一層の喫煙対策推進が求められると考えた。そこで、山口大学における学生の喫煙状況を把握し、喫煙対策を推進するうえでの課題を検討したい。

2 学生喫煙率からみる喫煙状況

2.1 平成 26 年度学生喫煙率

学生喫煙率調査は、毎年 4～5 月に実施している学生定期健康診断の間診票にて喫煙習慣の有無を尋ね、その記載をもとに行っている。

平成 26 年度の学部生喫煙率は、男子が 9.6%、女子が 1.0%であった(図 1, 2)。男女とも、入学時(1 年生時)には数名の喫煙者がいるのみだが、学年が上がるごとに喫煙率が上昇する傾向にある。特に、多くのものが 20 歳(合法的な喫煙年齢)を超える 3 年時に顕著な上昇がみられ、平均喫煙率を上回った。大学院生の喫煙率は、常盤キャンパスの女子を除いては学部生よりもさらなる上昇がみられた(表 3)。

平成26年度 山口大学学生の喫煙状況(男) 学部生										
		人文	教育	経済	理	医	工	農(共同獣 医含む)	合計	
1年	調査数	61	115	250	163	86	455	62	1192	
	喫煙者数	0	1	2	0	1	0	0	4	
	喫煙率	0.0%	0.9%	0.8%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	0.3%	
2年	調査数	32	96	136	99	83	303	68	817	
	喫煙者数	0	7	3	3	4	8	0	25	
	喫煙率	0.0%	7.3%	2.2%	3.0%	4.8%	2.6%	0.0%	3.1%	
3年	調査数	37	109	202	152	80	419	51	1050	
	喫煙者数	4	21	37	14	5	59	11	151	
	喫煙率	10.8%	19.3%	18.3%	9.2%	6.3%	14.1%	21.6%	14.4%	
4年	調査数	66	97	238	153	87	408	69	1118	
	喫煙者数	8	15	53	29	7	87	11	210	
	喫煙率	12.1%	15.5%	22.3%	19.0%	8.0%	21.3%	15.9%	18.8%	
5年	調査数					62		18	80	
	喫煙者数					9		4	13	
	喫煙率					14.5%		22.2%	16.3%	
6年	調査数					56		19	75	
	喫煙者数					6		7	13	
	喫煙率					10.7%		36.8%	17.3%	
合計	在籍数	293	458	1093	731	487	2078	308	5448	回収率
	調査数	196	417	826	567	454	1585	287	4332	79.5%
	喫煙者数	12	44	95	46	32	154	33	416	
	喫煙率	6.1%	10.6%	11.5%	8.1%	7.0%	9.7%	11.5%	9.6%	

図 1 平成 26 年度学部生喫煙率(男子学生)

平成26年度 山口大学学生の喫煙状況(女) 学部生										
		人文	教育	経済	理	医	工	農(共同獣 医含む)	合計	
1年	調査数	129	137	133	58	141	83	68	749	
	喫煙者数	0	0	1	0	0	0	0	1	
	喫煙率	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	
2年	調査数	69	140	85	60	157	63	56	630	
	喫煙者数	0	0	2	0	2	0	0	4	
	喫煙率	0.0%	0.0%	2.4%	0.0%	1.3%	0.0%	0.0%	0.6%	
3年	調査数	111	125	143	52	147	77	69	724	
	喫煙者数	3	3	1	0	1	4	0	12	
	喫煙率	2.7%	2.4%	0.7%	0.0%	0.7%	5.2%	0.0%	1.7%	
4年	調査数	129	155	115	58	152	62	57	728	
	喫煙者数	1	1	3	0	2	2	0	9	
	喫煙率	0.8%	0.6%	2.6%	0.0%	1.3%	3.2%	0.0%	1.2%	
5年	調査数					60		13	73	
	喫煙者数					0		3	3	
	喫煙率					0.0%		23.1%	4.1%	
6年	調査数					34		12	46	
	喫煙者数					0		0	0	
	喫煙率					0.0%		0.0%	0.0%	
合計	在籍数	535	584	594	259	707	331	306	3316	回収率
	調査数	438	557	476	228	691	285	275	2950	89.0%
	喫煙者数	4	4	7	0	5	6	3	29	
	喫煙率	0.9%	0.7%	1.5%	0.0%	0.7%	2.1%	1.1%	1.0%	

図2 平成26年度学部生喫煙率(女子学生)

表3 平成26年度大学院生喫煙率

大学院生	吉田キャンパス			常盤キャンパス			小串キャンパス		
	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計
在籍者数	329	171	500	767	94	861	155	58	213
調査数	254	141	395	585	80	665	27	10	37
喫煙者数	37	4	41	150	0	150	5	1	6
喫煙率	14.6%	2.8%	10.4%	25.6%	0.0%	22.6%	18.5%	10.0%	16.2%
	回収率 79.0%			回収率 77.2%			回収率 17.4%		

学部別にみると、男子学生では経済学部、農・共同獣医学部がともに11.5%と最も高く、次いで教育学部、工学部、理学部の順に高かった。女子学生では工学部が2.1%と最も高く、次いで経済学部、農・共同獣医学部、人文学部

の順に高かった。男女ともに、吉田キャンパス所属学部の喫煙率の高さが目立った。敷地内禁煙となった医学部(小串キャンパス)では、男女とも平均喫煙率を下回っていた。

地区別にみると、常盤キャンパスの喫煙率が吉田キャンパスを上回る結果であった(表4)。

吉田キャンパスには構成員に喫煙率の低い 1 年生を含んでいることや、構成員の男女比が影響していると考えられる。地区別でも、小串キャンパスの喫煙率は 3 キャンパス中最も低かった。

表 4 地区別喫煙率

地区	喫煙率 (喫煙者実数)	所属構成員(学生)
吉田	5.3%(290名)	全学部 1 年生, 工・医学部以外の 2 年生以上, 院生
常盤	15.5%(310名)	工学部 2~4 年生, 院生
小串	4.4%(42名)	医学部 2~6 年生, 院生

2.2 学生喫煙率の推移

平成 22 年度から 26 年度までの喫煙率の推移をみると、全体的に減少傾向がみられ、平成 26 年度が最も低い値であった (図 3)。

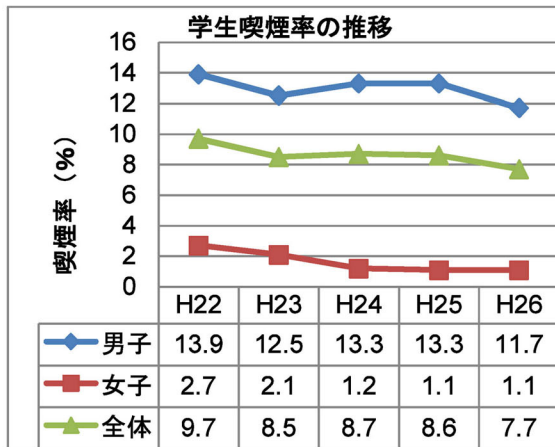


図 3 学生喫煙率の推移(平成 22~26 年度)

2.3 学生の喫煙開始年齢

吉田キャンパス在籍の学生喫煙者の喫煙開始年齢について記載のあったもののうち、大学入学後に喫煙開始したものが 9 割を超えていた (図 4, 5)。年齢別にみると、合法的喫煙年齢である 20 歳が男女とも最も多かったが、20 歳前後のあらゆる年齢でも喫煙開始がみられている。未成年での喫煙開始も少なくはなかった。大学院生では人数は少ないが、20 歳半ば

からの喫煙開始もみられた。

学部生の喫煙状況: 喫煙者 244 名 (喫煙率 7.9%)				
学部生の喫煙開始年齢(回答数: 156)				
	男(147名)	喫煙開始年齢	女(9名)	合計
		12歳	1	1
	2	15歳		2
	5	17歳		5
	8	18歳	1	9
	9	19歳	1	10
	111	20歳	5	116
	7	21歳	1	8
	4	22歳		4
	1	23歳		1
合計	147		9	156

図 4 学部生の喫煙開始年齢

大学院生の喫煙状況: 喫煙者 41 名 (喫煙率 10.4%)				
大学院生の喫煙開始年齢(回答数: 25)				
	男(25名)	喫煙開始年齢	女(0名)	
	2	18歳		
	2	19歳		
	14	20歳		
	5	21歳		
	1	24歳		
	1	26歳		
合計	25		0	

図 5 大学院生の喫煙開始年齢

3 考察

平成 26 年度の本学の喫煙率は、平成 25 年国民健康・栄養調査⁴⁾: (20~29 歳喫煙率) 男性 36.3%・女性 12.7%、学生の健康白書 2010⁵⁾: (大学生喫煙率) 男子 9.10%、女子 2.06%と比較し、全国の 20 代喫煙率よりは低い、全国大学生と比較すると男子はほぼ同等、女子はやや低めという結果であった。ここ数年の本学の喫煙率は減少傾向であり、各キャンパスでの取り組みによる成果が少なからず影響しているものと考えられる。今後も、学生喫煙率の減少を目指した取り組みの継続が必要である。

中でも、学部別・地区別に喫煙率をみた場合、小串キャンパス(医学部)の喫煙率が低いこと

が明らかであり、その結果には、医療職を目指すという背景だけでなく「敷地内全面禁煙」という環境が影響していると考えられる。逆に、喫煙場所の多い吉田キャンパスにおいては、喫煙率の高い学部も多く、喫煙場所の多さ（喫煙のしやすさ）が喫煙率の高さに影響している可能性が考えられた。最も喫煙学生の多い常盤キャンパスでの喫煙場所が4か所まで削減されていることに対し、吉田キャンパスの55か所という数はあまりにも多い。吉田キャンパスは、未成年者が多い1年生が学ぶ場でもあるため、喫煙環境の見直し・改善が必要である。「喫煙場所が存在することは、学生の喫煙率の増加につながり、喫煙者の禁煙意欲をそぐ」（高橋，2007：32）と言われており、1年生の間を「無煙（敷地内禁煙）」または「完全分煙」で過ごすことができれば、未成年者の喫煙防止や新たな喫煙者を減らすことにもつながるのではないかと考える。これは、健康日本21（第二次）における「未成年者の喫煙をなくす（0%を目指す）」という目標達成のためにも取り組むべき問題である。

また、学年が上がるごとに喫煙率が上昇すること、入学後20歳をピークとしたあらゆる年齢で喫煙が開始されることが明らかになったことから、入学直後からの段階的・継続的な喫煙防止教育の必要性が示唆された。喫煙防止教育は喫煙経験のない学生には有効であるが、喫煙学生には効果は短期的という報告もあり⁶⁾、いかに「最初の1本を吸わせないか」が重要になると考える。

4 現状から見えてきた今後の課題

山口大学の学生喫煙率から見えてきた今後の課題は、①学生喫煙率のさらなる減少、②受

動喫煙防止対策の強化（特に吉田キャンパス）、③未成年者をはじめとした学生の喫煙防止教育の3点である。それぞれの課題に対する具体的な取り組み案を表4に示した。

表4 今後の課題と取り組み案

課題	具体的な取り組み案
学生喫煙率の減少	<ul style="list-style-type: none"> ・喫煙学生への働きかけ ・学内での啓発活動（世界禁煙デー等の機会を利用しイベントを開催、喫煙場所の巡回・マナーアップキャンペーン等の実施）
受動喫煙防止対策の強化	（特に吉田キャンパスにおいて） <ul style="list-style-type: none"> ・喫煙場所の削減・改廃 ・喫煙対策WGの立ち上げ
学生の喫煙防止教育	<ul style="list-style-type: none"> ・段階的・継続的な喫煙防止教育（入学式、学部オリエンテーション、教育実習・病院実習前、就職セミナーなどあらゆる機会・場面を通して実施）

国立大学では2010年時点で84大学中13大学において敷地内全面禁煙が実施されており⁷⁾、今後も増えていくことが予測される中、本学ではどのようにこれらの課題に取り組むべきであろうか。これまでの喫煙対策は、各キャンパスでの自治（特に職域（労働安全衛生委員会））を中心に組み込まれてきたが、今回浮かび上がった課題はどれも学生関連部署をはじめ学生と関わる教職員の協力なくしては解決できない問題である。喫煙対策を職域からのアプローチだけでなく、教育的見地からも推進していくため、学内の多くの部署の理解・協力を得ていくことが必要であると考えられる。さらに、キャンパスの垣根を越えて、互いの情報や意見を交換する場を設けたり、山口大学としての方針・対策を整備していくことも必要なのではないかと考える。保健管理センターとしても、引き続き喫煙状況の把握や禁煙サポートを行いながら、喫煙防止教育や学内への啓発活動に積極的に取り組んでいきたい。

5 おわりに

「たばこは個人の自由だ」と思われる方も少なからずいらっしゃるでしょう。しかし、たばこは健康に良くない、たばこの煙は周囲の人にも悪影響を及ぼすということは、皆さんご存知だと思います。それでもたばこがやめられないのは、たばこに含まれるニコチンという物質による薬物依存と心理的依存が原因と言われています。

保健管理センターでは、山口大学に所属する学生、教職員を対象に無料で禁煙支援を行っています。ぜひ「一緒に」禁煙をしてみませんか？スタッフ一同、来室を心よりお待ちしております。

また、これをきっかけに少しでも禁煙や喫煙対策に興味・関心を持っていただく方が増え、学内の喫煙対策がより一層推進されることを心より願っています。

(保健管理センター 保健師)

6) 川崎詔子他, 2014, 大学入学時点での喫煙経験の有無が喫煙防止教育の成果に与える影響について, 喫煙科学 8 巻 - 08, 1-7.

7) 高橋裕子他, 2012, 大学禁煙化ロードマップの作成と提供について (第二報), CAMPUS HEALTH49 (1), 390-392.

【参考文献】

- 1) 中原敦子他, 2010, 医学部敷地内禁煙に伴う喫煙率の変化, 第 40 回中国・四国大学保健管理研究集会報告書, 89-92.
- 2) 小林久美他, 2011, 山口大学常盤キャンパス (工学部) の喫煙対策について, 第 41 回中国・四国大学保健管理研究集会報告書, 73-77.
- 3) 奥屋茂他, 2012, 山口大学常盤事業場の喫煙対策 5 か年計画における教職員・学生アンケートから見えてきたもの, CAMPUS HEALTH49 (1), 379-381.
- 4) 厚生労働省, 平成 25 年国民健康・栄養調査結果の概要.
- 5) 国立大学法人保健管理施設協議会, 学生の健康白書 2010.